

ムンプス難聴発生頻度の真実

—近畿外来小児科学研究グループによる調査報告—

橋本裕美

【目的】ムンプス難聴は，従来 1.5～2 万人に 1 人程度のまれなものとされていた。しかし近年，地域流行時の報告ではあるが，より高頻度の報告が相次いでいる。我々は小児科開業医のグループ研究により前方視的にムンプス難聴発生頻度を明らかにすることを試みた。【対象】2004 年 1 月から 2006 年 12 月の間に調査協力医療機関(40 施設)を受診し，ムンプスと臨床診断された 20 歳以下の症例。【方法】初診時にムンプス難聴の可能性を説明し，指擦りにより聴力を確認。調査に同意の得られたもので，同聴力検査を家庭にて 2 週間，一日 2 回実施し結果を回収した。聴力の低下が疑われた場合には耳鼻科にて診断を受けた。

【結果】20 才以下のムンプス症例は 7,831 例，調査参加者は 7,502 例。このうち調査票の回収が出来た 7,400 例中，高度難聴の発症が 7 例発見された。全例ワクチン未接種，片側性の高度感音性難聴でムンプス難聴の診断を受け，現在も回復していない。難聴の発症は耳下腺腫脹時が 2 例。3 例は 3－5 病日に発症。2 例は調査期間中には見逃されて後に電話や学校健診で発見された。

【考察】ムンプス難聴の発生頻度は従来の定説よりも明らかに多く，1000 人に 1 人(95%信頼区間: 1/549~1/3,128)程度の発生と考えられる。また小児では聴力検査が困難であり，聾であっても容易に見逃されることが明らかになった。ムンプス難聴は，ムンプスが不顕性感染や軽症で受診しない例が多い，難聴が片側で気付かれにくい，耳鼻科と小児科の複数科にまたがるなどの理由により頻度の把握が困難である。過去の発生頻度の報告は，母数であるムンプス感染者を推測値によったため正確でなかった。ムンプスは予防接種によって制圧可能な疾患であり，諸外国ではムンプス難聴は既に過去の疾患になっている。我が国においてもムンプス難聴について広く啓発して予防接種によるムンプスの制圧を目指すべきである。